令和６年度

丹波の森研究所活動報告

報　告　書

令和７年３月

（公財）兵庫丹波の森協会　丹波の森研究所

目　　次

はじめに…… 1

１　令和６年度調査研究・活動報告

１-１　地域課題解決に向けた調査研究…… ２

１-２　地域づくり支援事業…… ３

２　令和６年度委託業務

2-１　縄文の森ユース躍動プロジェクト…… ４

2-２　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務……13

はじめに

丹波の森研究所は、「丹波の森構想」（人・自然・文化・産業の調和した丹波地域づくり）を推進するシンクタンクや支援組織をめざして、平成８年（1996 年）、財団法人丹波の森協会（現、公益財団法人兵庫丹波の森協会）によって設けられました。初代の中瀬勲所長を中心に、地域づくりに関する諸分野に関する調査研究を行ってきましたが、平成 28 年度をもって退任され、平成 29 年度は、関西学院大学の角野幸博先生を新所長に迎え、新たなスタートとなりました。

平成 30（2018）年度は「丹波の森構想」30 周年であり、また県政 150 周年となる節目の年度でした。11 月には「丹波の森宣言３０周年記念シンポジウム」が開催され、「これからの丹波の森づくり」の骨子が提案されました。丹波の森研究所では、新たな課題として提案されたうちの「集落に住み続けるための集落再生・活性化」と「生物多様性の保全に向けた取り組み」を研究テーマとして調査研究を進めています。

今後丹波の森研究所としては、こうした社会的課題の解決に応えていくよう求められており、丹波の森研究所としても新たな展開を図るべきところにあります。

丹波の森研究所の主たる業務は、地域づくりにおける相談、アドバイス、情報提供、学習会などを通じた地域づくりの支援のほか、丹波の森づくりに関する調査研究、講演や報告会などを通じた啓発・普及、行政の施策・事業に関するアドバイザー協力を行うほか、「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会」の調査企画部分を担っています。

■丹波の森研究所　所員　（令和７年３月現在）

研究所所長	角野　幸博（丹波の森公苑長兼務）
研究所次長	足立　良二（兵庫丹波の森協会事務局長）
主任研究員	藤本　真理
特任研究員	上甫木　昭春
登録研究員	門上　保雄
	上岡　典子
	横山　宜致
	片平　深雪
	塩山　沙弥香
	小橋　昭彦
	出町　慎
	門上　幸子
	谷垣　友里
	宮川　五十雄
	内田　圭介
	清水　夏樹
	垣内　敬造

1　令和６年度調査研究・活動報告

1-1　地域課題解決に向けた調査研究

（1）丹波の森研究所の課題

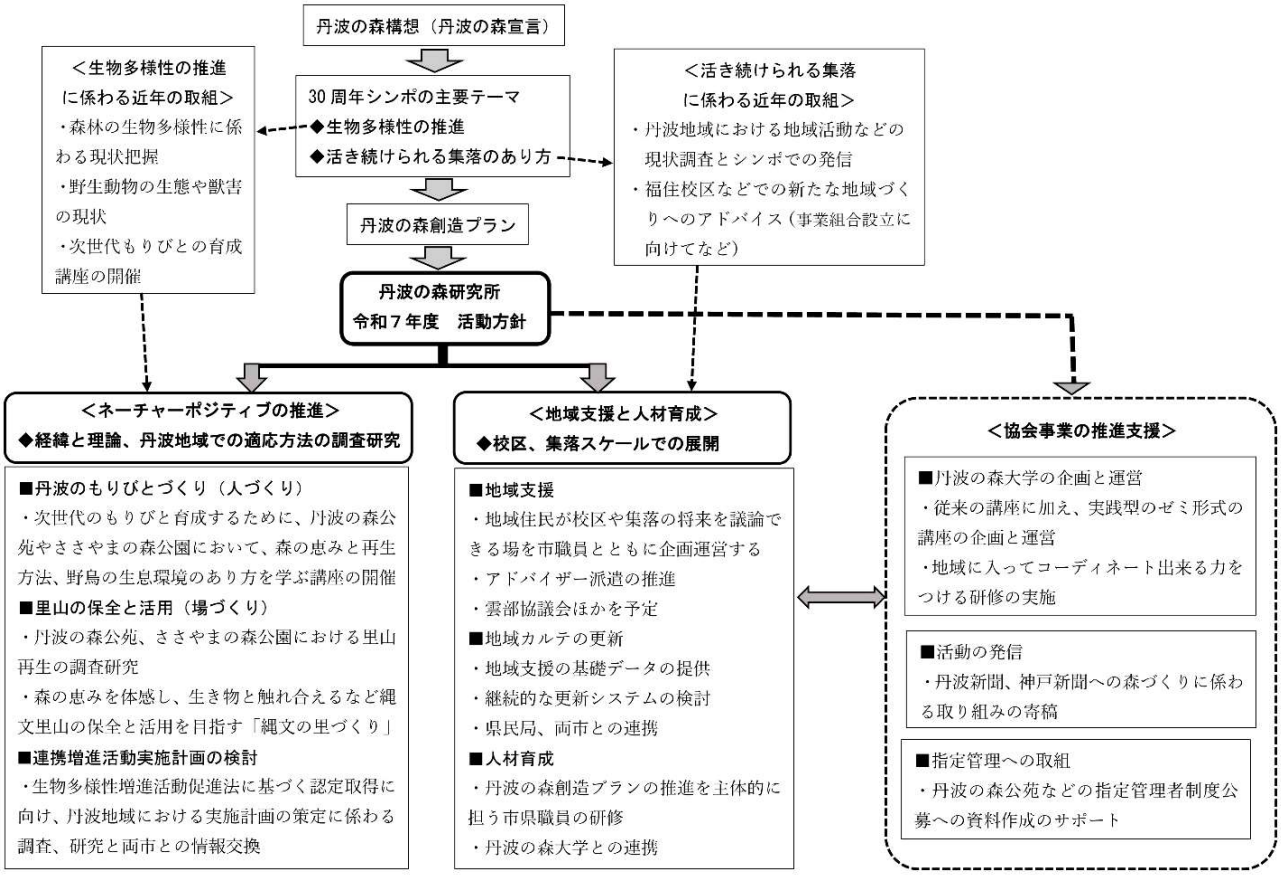
丹波の森研究所では、丹波の森構想の 30 周年シンポジウムを受けて、生物多様性の推進、生き続けられる集落のあり方を主要テーマとして取り組んできた。また、丹波の森構想のさらなる推進を目指して丹波の森創造プランの立案をサポートした。

近年の社会動向をみると、2030 年までに陸域、海域の 30%以上の生態系の保全を目標として「30by30」が掲げられている。今後は、人類の存続基盤を保全・再生する取り組みとして、ネイチャーポジティブの推進が重要な課題である。

また、人口減少・少子高齢化も加速度的に進む中で、生活の基盤となる校区・集落スケールでの地域活動（コミュニティの形成、環境性能の維持、生業の活性化など）を健全に持続していく方策を探っていくことが喫緊の課題となっている。

（2）今後の活動内容の検討

丹波の森研究所では、「ネイチャーポジティブの推進」と「地域支援と人材育成」を主要な活動内容とし、丹波の森大学、活動の発信、指定管理への取組など協会事業の推進支援を行うための枠組みを検討した。（下図参照）



1-2　地域づくり支援活動

（1）丹波地域持続可能な多自然地域づくり情報交換会

- 地域づくりの基礎情報となる校区カルテのデータ収集と更新方法に関する意見交換
- 地域支援の状況についての意見交換
- 丹波県民局躍動室地域共創課、丹波篠山市市民生活部地域振興課、丹波市まちづくり部市民活動課、特定営利活動法人丹波ひとまち支援機構、公益財団法人兵庫丹波の森協会丹波の森研究所などによる定期的な情報交換会を開催した。
- 実施日：令和６年６月20日、８月29日、11月７日、令和７年２月13日

（2）地域づくりアドバイザー派遣

- これまで、地域づくり重点地区への支援としてのアドバイザー派遣は、主に丹波の森研究所の研究員が地域づくり支援を行ってきた。
- 最近では、集落だけでなく、高校や小学校からも現況把握や問題整理など、ワークショップによる課題解決のための支援要望があり、若い世代の地域づくりへの関心を高める取り組みとしても考えている。

＜令和６年度アドバイザー派遣実績＞

①福住地区まちづくり協議会

- 福住地区の戦略的移住推進に係わる、特定地域づくり事業協同組合、各種の施設改修やプロジェクトなどの取り組みに対するアドバイスを行った。
- 実施日：令和６年６月８日

②雲部地区まちづくり協議会

- 旧雲部小学校の耐力度調査より大規模改修が困難であること受け、地域のリーダーともなる若い人を中心として、今後の旧雲部小学校跡地の活用のあり方を検討する懇話会全体の進め方や、ワークショップの進行・まとめ方、またファシリテーターの役割等についての助言を行った。
- 実施日：令和６年10月１日、10月３日、令和７年２月21日、２月27日

２　令和６年度委託業務

2-1 縄文の森ユース躍動プロジェクト

（1）事業の目的

「丹波の森構想」の策定当初から故河合雅雄先生の理念に基づき実施されている「丹波縄文の森塾」のアドバンスコースとして、「縄文の森ユース躍動プロジェクト」の取り組みを実施する。

丹波地域の生物多様性の推進に取り組む次代の人材育成を目指し、主に中学・高校・大学世代などを対象として、自然の中で感性を磨き、ふるさと意識を再認識するとともに、森と動物と人間が相互に依存し合う循環的な環境システムのあり方について理解を深めることを目的とする。

（2）事業概要

①森を見守る若手育成プロジェクト

・目的：丹波の森を見守る次世代チャレンジャーの育成を目的とし、「植物の生態」「動物の生態」「食の恵み」「生活環境への恵み」などの視点から、森の保全・再生・活用のあり方を学ぶプログラムを行った。

・期間：令和６年６月～10 月

・丹波の森公苑をフィールドとして

・兵庫森林動物研究センターとの連携

②高校生を主対象とした森の保全再生プロジェクト

・目的：鳥類の基礎的な生息条件を学ぶとともに、鳥類生息に係わるささやまの森公園の現状把握と周辺植生や水生昆虫などとの相互関係を調査した。

・期間：令和６年５月～10 月

・ささやまの森公園をフィールドとして

・篠山東雲高校自然科学部との連携、京都府立大学福井亘教授の協力、

（3）参加状況

〇延べ参加人数　　計 98 名（丹波の森公苑：48 名、ささやまの森公園：50 名）

〇参加人数　　計 30 名（丹波の森公苑：22 名、ささやまの森公園：30 名）

〇複数回参加人数　計 22 名（丹波の森公苑：10 名、ささやまの森公園：12 名）

（4）　プロジェクトの概要

1）森を見守る若手育成プロジェクト（丹波の森公苑をフィールドとして）

【プロジェクトの特徴】

・丹波の森を見守る次世代チャレンジャーの育成を目的とし、「植物の生態」「動物の生態」「食の恵み」「生活環境への恵み」などの視点から、森の保全・再生・活用のあり方を学ぶ。

【講座の内容】

①6 月 23 日（日）10 時～15 時：植物の生態を学ぶ（藤木大介）

・「森の成り立ちと植物の見分け方」、「検索図鑑を用いた樹木の学習」

・「シカの食害による植生の変化を理解する」、「丹波の森公苑内での影響の現状と対策」

②7 月 28 日（日）10 時～15 時：食の恵みを体感する（横山真弓、藤本裕昭、福井佑美子）

・「シカ問題を『食べる』から考える」、「ジビエ料理の体験と試食」

・「人と野生動物の関わりを考える」、「野生動物の捕獲と食資源化について」

③8 月 24 日（土）10 時～16 時：動物の生態を学ぶ①（高木俊）

・国際調査プロジェクト※への参加

・「野生動物の生息状況の調査方法」、「センサーカメラの設置」

※カメラトラップによる野生動物の国際調査プロジェクトの概要
直接観察が難しい野生動物の調査には、センサーカメラを用いた調査（カメラトラップ）が行われます。今回は国際的な共同調査プロジェクト「Snapshot Global」と同一の手法で、研究者と参加者での共同調査を試みます。調査後のデータはプロジェクトで共有され、国内外の研究に利用される予定です。

④10 月 19 日（土）10 時～16 時：動物の生態を学ぶ②（高木俊）

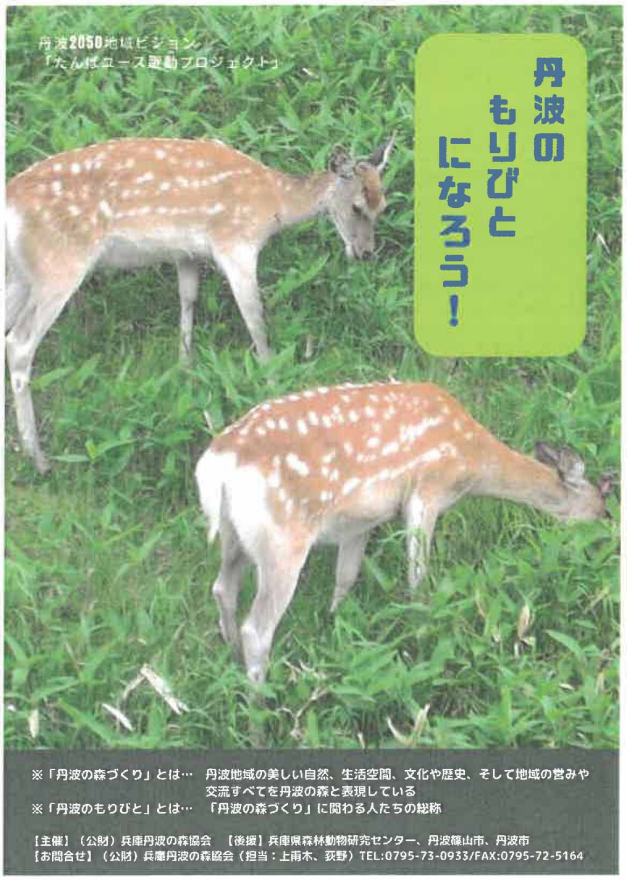
・国際調査プロジェクトへの参加

・「センサーカメラの回収」、「撮影された動画の確認と集計」

⑤11 月９日（土）10 時～12 時：生活環境への恵みを学ぶ（上甫木昭春）

・「森が有する現代的役割と保全・活用方法」

【パンフレット】



このプロジェクトは、丹波の森公苑にて開催している「縄文の森塾」のアドバンスコースとして、高校生・大学生・社会人などを対象として、丹波の森を見守る次世代チャレンジャーの育成を目的としています。

森を健全に持続していくためには、森と動物と人間が共生するための知恵や技術を、多面的な研究成果から学び直すことが大切です。本講座では、着ながらの調査手法に加えて、センサーカメラ、ICTを用いた捕獲方法など新しい調査技術も学ぶことができ、国際的な野生動物調査にも参加することができます。

～カメラトラップによる国際野生動物調査にも参加しよう！～

直接観察が難しい野生動物の調査には、センサーカメラを用いた調査（カメラトラップ）が行われます。今回は国際的な共同調査プロジェクト「Snapshot Global」と同一の手法で、研究者と参加者での共同調査を試みます。調査後のデータはプロジェクトで共有され、国内外の研究に利用される予定です

- 期間：令和６年6月～10月
- 場所：丹波の森公苑（丹波市柏原町柏原5600）
- 対象：高校生、大学生、社会人など
- 参加形態：通年参加を優先、個別参加も可能（先着20名程度）

講座の内容

○6月23日（日）10時～15時：植物の生態を学ぶ（担当：藤木大介）
・「森の成り立ちと植物の見分け方」、「検索図鑑を用いた樹木の学習」
・「シカの食害による植生の変化を理解する」、「丹波の森公苑内での影響の現状と対策」

○7月28日（日）10時～15時：食の恵みを体感する ※参加費2,000円
（担当：横山真弓・藤本裕昭・福井佑実子）
・「シカ問題を『食べる』から考える」、「ジビエ料理の体験と試食」
・「人と野生動物の関わりを考える」、「野生動物の捕獲と食資源化について」
・「畑から食卓までの循環～有機農業の視点でシカ問題を考える」

○8月24日（土）10時～16時：動物の生態を学ぶ①（担当：高木俊）
＜国際調査プロジェクトへの参加＞
・「野生動物の生息状況の調査方法」、「センサーカメラの設置」

○10月19日（土）10時～16時：動物の生態を学ぶ②（担当：高木俊）
＜国際調査プロジェクトへの参加＞
・「センサーカメラの回収」、「撮影されたデータの確認と集計」

○11月9日（土）10時～12時：生活環境への恵みを学ぶ（担当：上雨木昭春）
・「森が有する現代的役割と保全・活用方法」

講師紹介 （登場順、敬称略）

藤木　大介（フジキ　ダイスケ）
博士(農学)。兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授。兵庫県森林動物研究センター主任研究員を兼務。専門は森林生態学。植物と動物（主にニホンジカ、ツキノワグマ）の関係を解明することで、よりよい生態系の管理のあり方を模索している。

横山　真弓（ヨコヤマ　マユミ）
博士（獣医学）。兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授。兵庫県森林動物研究センター研究部長を兼務。専門は野生動物管理学。主に人と軋轢の多いツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシを対象に行動特性や栄養状態に関する研究を行い、人と野生動物の共存に向けた仕組みづくりを行っている。

藤本　裕昭（フジモト　ヒロアキ）
NPO法人里山グリーンネットワーク。専門学校を経て調理師として飲食業界に従事。後に地元山南町で開業した焼き鳥店のメニューに(株)丹波姫もみじの鹿肉をとりいれたことがきっかけとなり、現在はNPO活動として鹿の有効活用、並びに鹿肉普及に取り組む。

福井　佑実子（フクイ　ユミコ）
株式会社立プラスリジョン 代表取締役。農林水産省施策農山漁村発イノベーションプランナー、有機JAS検査員、IFOAM Organics ASIA（国際有機農業運動連盟 アジア支部）理事として国内外の有機農業支援・推進に取り組んでいる。2013年「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」兵庫県知事賞受賞

髙木　俊（タカギ　シュン）
博士（農学）。兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授。兵庫県森林動物研究センター主任研究員を兼務。モニタリングデータの分析からシカやツキノワグマなどの野生動物の個体群動態の推定を行い、動物の生息状況把握や適切な個体数管理に向けた研究を行っている。

上雨木　昭春（カミホギ　アキハル）
博士（学術）。大阪府立大学名誉教授。公益財団法人兵庫丹波の森協会　丹波の森研究所特任研究員。専門は緑地計画学、地域生態学。地域の自然と歴史を手掛かりに、健全な地域環境の形成のあり方を探る調査研究に取り組んでいる。

受講申込方法

①下記の受講申込書に必要事項を記入の上、丹波の森公苑２階事務局窓口までお持ちいただくか、または郵送、FAXでお申込みください。
②右記のQRコードを読み取り、申込フォームからもお申込みいただけます。フォームに従って送信してください。
③申込締切　　６月１９日（水）

会場地図

令和６年度「たんばの“もりびと”になろう」受講申込書

令和６年　　月　　日

ふりがな		年　齢	歳
氏　名			
住　所	〒　－		
電話番号	（　　）　－	FAX 番号	（　　）　－
Email ｱﾄﾞﾚｽ（お持ちの方は記入してください）			
希望講座	【　　】全　講　座	【　　】6月23日(日)（担当：藤木大介）	【　　】7月28日(日)（担当：横山真弓他）※参加費2，000円
全講座または個別講座の該当する【　】内に○をつけてください	【　　】8月24日(土)（担当：高木俊）	【　　】10月19日(土)（担当：高木俊）	【　　】11月9日(土)（担当：上雨木昭春）

※ご記入いただいた個人情報は厳重に管理し、当事業のみで使用します。

2）高校生を主対象とした森の保全再生プロジェクト（ささやまの森公園をフィールドとして）

①全体ガイダンスと福井亘先生（京都府立大学教授）の講義と実習（5 月 25 日（土））

・午前座学「里地や森の鳥の生息環境について」、午後実習「鳥の観察と調査の方法，現地研修」

【講義と実習の目的】

里地を含む里山やその周辺での山の森には様々な生き物が生息しています。その環境を見ていく中で，多様な生き物がつながっていることが見えてきます。例えば，食物連鎖の上位に位置する鳥を見てみると，その場所の様々な環境の状況が見えて，そこの生態系や生物多様性も見えてくるかもしれません。

この講義と実習では，鳥をもとに考えてみようと思います。観察からどういった鳥の種がどうしてその場所にいるのか，そしてその鳥はどう生きているのかを調査してみましょう。そのためには，鳥を調べる調査手法を学びながら，野外調査を実施し，注意深く確認していく必要があります。その結果から，里地や森の環境を考えてみましょう。ここでは，鳥から生息環境を考えるきっかけをつくります。

【講義、実習の風景】

②鳥類の生息状況と生息環境のフィールド調査（６月～９月）

◆第１回調査　６月 23 日(日)10:00～15:00

◆第２回調査　７月７日(日)10:00～15:00

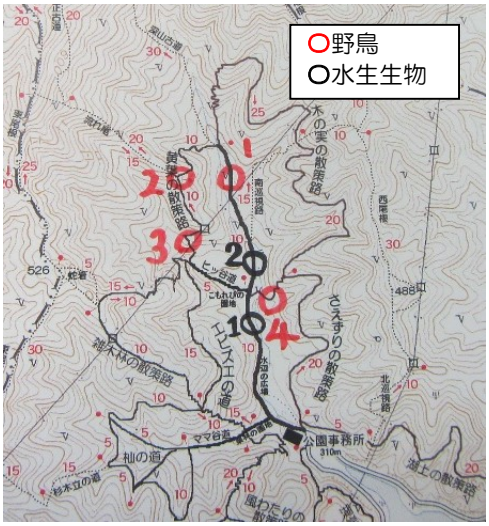
◆第３回調査　８月 18 日(日)10:00～15:00

◆第４回調査　９月８日(日)10:00～15:00

【毎回の実習内容】

◆10:00～12:00　鳥類の調査等

◆13:00～15:00　水生生物の調査等



鳥類、水生生物の観察地点：

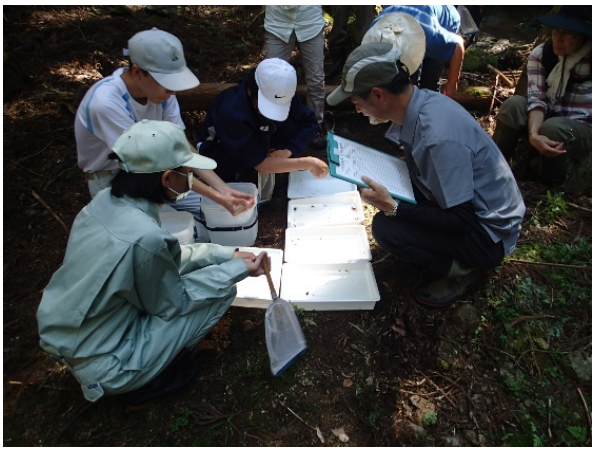
（野鳥観察地点１）

（野鳥観察地点２）

（野鳥観察地点３）

（野鳥観察地点４）

（水生生物観察地点１）



（水生生物観察地点２）

【フィールド調査の発表会（10月26日（土）】

ささやまの森公園の生物調査

兵庫県立篠山東雲（しののめ）高等学校　自然科学部

はじめに

篠山東雲高校の近くの兵庫県立ささやまの森公園には、オオルリ(図1)やサンコウチョウ(図2)、アカショウビン(図3)、ヤイロチョウ(図4)などの貴重な夏鳥が見られる。そのことはＳＮＳなどで野鳥愛好家の間で知れ渡り、野鳥愛好家にとっての聖地となっている。しかし、本格的な野鳥調査はできていないために、私たちが公園内で野鳥の生息する環境を調査することにした。

図1 オオルリ

図2 サンコウチョウ

図3 アカショウビン

図4 ヤイロチョウ

方法

１、調査日時

令和6年 7月7日(日)、8月1日(木)、8月18日(日)、9月8日(日)

①野鳥調査　　10:00～12:00

②水生生物調査 13:00～15:00

２、調査場所

兵庫県立ささやまの森公園（丹波篠山市川原）

３、調査方法

①野鳥調査

公園内の環境の異なる４ヶ所(スギ林、アカマツ林、コナラ林、野鳥観察小屋)で10分間のポイントセンサス法により野鳥の姿、鳴き声を記録した。

②水生生物調査

公園内の渓流２ヶ所(水辺の広場、堰堤の上流)で30分間、たも網を使って水生生物を採集し、種類と個体数を記録した。

結果と考察

野鳥調査では15種類の野鳥の姿や鳴き声を確認した(表1)。

夏鳥はサンショウクイ、サンコウチョウ、クロツグミ、キビタキ、オオルリの５種であった。サンショウクイは野鳥観察小屋のみで、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウは複数の地点で確認できた。今回の調査ではアカショウビン、ヤイロチョウは確認できなかった。

表1　野鳥調査の結果

調査地点		①スギ林		②アカマツ林		③コナラ林		④野鳥観察小屋		備考
種名	科名	姿（個体数）	鳴き声	姿（個体数）	鳴き声	姿（個体数）	鳴き声	姿（個体数）	鳴き声	
キジバト	ハト科				○		○			
コゲラ	キツツキ科	1	○				○		○	
サンショウクイ	サンショウクイ科								○	夏鳥
サンコウチョウ	カササギヒタキ科		○		○					夏鳥
カケス	カラス科		○		○					
ハシボソガラス	カラス科				○					
ハシブトガラス	カラス科						○		○	
ヤマガラ	シジュウカラ科					1	○			
シジュウカラ	シジュウカラ科						○			
ヒヨドリ	ヒヨドリ科	2	○	1	○		○	2	○	
メジロ	メジロ科			1				2		
クロツグミ	ヒタキ科		○		○			2		夏鳥
キビタキ	ヒタキ科				○		○			夏鳥
オオルリ	ヒタキ科		○		○		○		○	夏鳥
イカル	アトリ科				○		○		○	
種数		2	6	2	9	1	9	3	6	
		6		10		9		8		

留鳥においては、ヤマガラ(図5)とシジュウカラはコナラ林で確認できた。これらの種はコナラなどの広葉樹を生息場所として好むと考えられる。メジロは野鳥観察小屋とアカマツ林で姿を見ることができた。また、キジバトやコゲラ、カケス、ヒヨドリ、イカルは複数の場所で確認できた。これらは中型の鳥類であるため、ヤマガラなどに比べて活動範囲が広く複数の場所で確認できたと思われる。ハシボソガラス、ハシブトガラスは林冠や空中で大きな声で鳴くので環境に関係なく多くの場所で確認できた。

図5 ヤマガラ

水生生物調査では25種類の生物を確認した(表2)。

魚類は渓流に生息するタカハヤ(図6)、カジカ(図7)、ナガレホトケドジョウ(図8)とカワヨシノボリを確認できた。しかし、堰堤の上流ではカジカとカワヨシノボリは確認できなかった。

図6 タカハヤ

図7 カジカ

図8 ナガレホトケドジョウ

両生類では兵庫県版レッドデータＣランクになっているタゴガエル(図9)が多く確認できた。水生昆虫においてはトンボの幼虫(ヤゴ)(図10)が多く見られた。ヤゴは肉食であるため、採集できていない小さな水生生物も多く生息していることが想像できる。また、渓流で一般的なサワガニ(図11)は毎回多く確認することができた。そのことから、ささやまの森公園には良好な自然環境があることがわかった。

図9 タゴガエル

図10 ヤゴ

図11 サワガニ

表2　水生生物調査の結果

		調査場所	水辺の広場				堰堤の上流			
		調査日	7月7日	8月1日	8月18日	9月8日	7月7日	8月1日	8月18日	9月8日
	No.	種名	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数	個体数
魚類	1	タカハヤ	2	12	12	8	1	15	16	11
	2	カワヨシノボリ	1	3		1				
	3	カジカ	1	1		3				
	4	ナガレホトケドジョウ	1	1	1	3		1	1	4
両生類	5	タゴガエル	2			1	3			1
甲殻類	6	サワガニ	20	31	20	32	17	18	21	16
	7	ヨコエビ		2		1	1	1	1	1
貝類	8	カワニナ	1	1			1		1	
昆虫類	9	ヘビトンボ(幼虫)	3	1	2	1			1	
	10	カワゲラの一種(幼虫)	3	2	1	1		2	1	1
	11	チラカゲロウ(幼虫)	2		1					
	12	モンカゲロウ(幼虫)	2		4	1	1	1	2	1
	13	タニガワカゲロウ(幼虫)	1	1	1		2	3	1	1
	14	ヒゲナガカワトビケラ(幼虫)	2							
	15	ウルマーシマトビケラ(幼虫)	1							
	16	トビケラの一種(幼虫)	1	1						
	17	オナガサナエ(幼虫)		1	6	2	3	1	1	3
	18	オジロサナエ(幼虫)		1	1		1	1		1
	19	ヤブヤンマ(幼虫)	1	2		1	3	1	4	
	20	ヤンマの一種(幼虫)	1						1	1
	21	ムカシトンボ(幼虫)	1							
	22	ヒラタドロムシ(幼虫)		1	1	1				
	23	ヒシアメンボ			1					
	24	マツモムシ							1	
綿形虫類	25	ハリガネムシ								1
種数			23				16			

謝辞

本研究は(公財)兵庫丹波の森協会が主催する「たんばユース躍動プロジェクト」により行い、丹波の森研究所の上甫木昭春様、京都府立大学大学院の福井 亘教授、ささやまの森公園の奥田 格様をはじめ多くの方々にお世話になりました。

参考文献

1) 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄，新版日本の野鳥，山と渓谷社(2022)

丹波2050地域ビジョン
「たんばユース躍動プロジェクト」

丹波のもりびとになろう！

ささやまの森公園の保全再生プロジェクト

※「丹波の森づくり」とは…　丹波地域の美しい自然、生活空間、文化や歴史、そして地域の営みや交流すべてを丹波の森と表現している
※「丹波のもりびと」とは…　「丹波の森づくり」に関わる人たちの総称

【主催】（公財）兵庫丹波の森協会　【後援】兵庫県森林動物研究センター、丹波篠山市、丹波市
【お問合せ】（公財）兵庫丹波の森協会（担当：上雨木、荻野）TEL:0795-73-0933/FAX:0795-72-5164

このプロジェクトは、（公財）兵庫丹波の森協会で実施している「縄文の森塾」のアドバンスコースとして、高校生や自然愛好家などを対象として、丹波の森を見守る次世代チャレンジャーの育成を目的としています。
ささやまの森公園では、これまでから珍しい野鳥が飛来し、41種もの多くの鳥が観察されています。このプロジェクトでは、鳥類の基礎的な生息環境を学習し、その後、ささやまの森公園をフィールドとして、鳥類の生息を支える森の仕組みなどについて学ぶことができます。

- 期間：令和６年５月～10月
- 場所：ささやまの森公園（丹波篠山市川原511－1）
- 対象：高校生、自然愛好家など
- 参加形態：各講座、実習の個別参加も可能（先着20名程度）
- 参加費：無料

講座の内容

○５月25日（土）10時～15時
「全体ガイダンスと福井亘先生（京都府立大学教授）の講義と実習」
午前：座学　「里地や森の鳥の生息環境について」
午後：実習　「鳥の観察と調査の方法、現地研修」

里地を含む里山やその周辺での山の森には様々な生き物が生息しています。その環境を見ていく中で，多様な生き物がつながっていることが見えてきます。例えば，食物連鎖の上位に位置する鳥を見てみると，その場所の様々な環境の状況が見えて，そこの生態系や生物多様性も見えてくるかもしれません。この講義と実習では，鳥をもとに考えてみようと思います。観察からどういった鳥の種がどうしてその場所にいるのか，そして、その鳥はどう生きているのかを調査してみましょう。そのためには，鳥を調べる調査手法を学びながら，野外調査を実施し，注意深く確認していく必要があります。その結果から，里地や森の環境を考えてみましょう。ここでは，鳥から生息環境を考えるきっかけをつくります。

○６月～９月　「鳥類の生息状況と生息環境のフィールド調査」
◆第１回調査：6月23日（日）10：00～15：00
◆第２回調査：7月7日（日）　10：00～15：00
◆第３回調査：8月18日（日）10：00～15：00
◆第４回調査：9月8日（日）　10：00～15：00

<内容>（毎回）
10：00～12：00　鳥類の調査等
13：00～15：00　水生生物の調査等
＊午前・午後、どちらかの参加も可能
＊調査の詳しい内容は5月25日（土）に紹介

ムロウテンナンショウ

○10月26日(土)　「フィールド調査の発表会」
◆各調査グループからの発表と意見交換
◆講評（福井亘先生）

講師紹介　（敬称略）

福井　亘（フクイ　ワタル）
神戸市須磨区生まれ。愛媛大学農学部卒業。神戸芸術工科大学大学院修士課程，大阪府立大学大学院博士後期課程修了。
大学で農学，院でデザインと緑地計画，景観生態を学ぶ。
自然環境研究センター勤務時は，環境省によるトキの野生復帰，生物多様性国家戦略の業務などに携わった。
学生時代より，日本を中心に中国などのアジア圏で都市や近郊の土地利用や緑地と動植物，中でも鳥類との関係について研究をしている。加えて，景観や史跡，庭園などの保全活用・整備計画などにも日本とアジア圏で携わっている。
財団法人自然環境研究センター研究員から民間の計画・設計コンサル，大学事務職員を経て，教育機関に務める。西日本短期大学准教授，中国厦門市の華侨大学建築学院景観設計系客員副教授を経て，現在は京都府立大学大学院教授，大手前大学史学研究所客員研究員，華侨大学建築学院客員教授を務めている。

オオルリ

サンコウチョウ

アカショウビン

ヤイロチョウ

受講申込方法

①下記の受講申込書に必要事項を記入の上、丹波の森公苑２階事務局窓口までお持ちいただくか、または郵送、FAXでお申込みください。
②右記のQRコードを読み取り、申込フォームからもお申込みいただけます。フォームに従って送信してください。
③申込締切　　５月24日（金）

会場地図

令和６年度「たんばの“もりびと”になろう」
（ささやまの森公園）受講申込書

令和６年　　月　　日

ふりがな		年齢	歳
氏　名			
住　所	〒　－		
電話番号	（　　）　－	FAX番号	（　　）　－
Emailｱﾄﾞﾚｽ（お持ちの方は記入してください）			
希望講座 全講座または個別講座の該当する【　】内に○をつけてください	【　】全講座	【　】5月25日(土) 全体ガイダンスと講義・実習	【　】6月23日(日) 第１回調査
	【　】7月7日(日) 第２回調査	【　】8月18日(日) 第３回調査	【　】9月8日(日) 第４回調査

※ご記入いただいた個人情報は厳重に管理し、当事業のみで使用します。

2-2　丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務

（1）業務の目的および内容

①業務の目的

丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、里山づくり計画を策定し、地域に根ざした息の長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的とする。

②業務内容

１）里山づくり協議会の設置

・下表の里山づくり活動団体（以下、活動団体）については、里山づくりアドバイザー（以下、アドバイザー）の支援を受けながら、持続的に活動が可能な体制になるよう各活動団体が運営する「里山づくり協議会（以下、協議会）」を設置し、里山づくりアドバイザーと連携、協議しながら活動を継続する。

・協議会を構成するメンバーは活動団体、アドバイザーのほか、（公財）兵庫丹波の森協会丹波の森研究所、活動地所在市（丹波篠山市、丹波市）の担当課、丹波農林振興事務所等とし、（公財）兵庫丹波の森協会（丹波の森研究所）はコーディネーターとして活動団体への助言、支援を行う。

・これまでに採択された活動団体は 11 団体であるが、団体の意向等により、今年度、里山づくりアドバイザーを派遣した地区は５団体となった。

・令和６年度　里山づくりアドバイザー派遣活動団体（5 団体）

団体名（応募順）		活動区域
平成 31 年度採択	平松区森林愛好会	丹波市春日町
令和元年度採択	八幡共有山組合	丹波篠山市杉
	岩崎自治会	丹波篠山市岩崎
	ふるさと和田里山づくり協会	丹波市山南町
令和４年度採択	国領地区自治協議会	丹波市春日町国領

※令和６年度　里山づくりアドバイザーを派遣しなかった６団体（辞退、活動休止等の理由）
生郷里山づくり懇話会（丹波市氷上町）、北岡本自治会（丹波市市島町）、NPO バイオマス丹波篠山・森の学び舎（丹波篠山市）、NPO バイオマスフォーラムたんば・里山ごんげん（丹波市氷上町）、上板井自治会（丹波篠山市上板井）、下三井庄地区（丹波市春日町）

（2）里山づくり活動団体の活動概要と課題

・採択時のヒアリング内容を中心に里山づくり活動団体の概要を取りまとめた。

①平松区森林愛好会

1）現在の主な活動

ア）森林・山村多面的機能発揮事業に取り組んでいる

・定期的に作業（メインとなる作業員は 7～8 人：高齢化している）

イ）定期活動（毎月第 2、4 土曜・日曜）・・・間伐、薪づくり、チップづくり等

・間伐：月 1 回程度、NPO 森林サポートセンターに応援を頼んでいる（有料）

・チップ：宮津の山陰丸和林業（バイオマス発電用）、竹チップ（キエタン用）

・薪：神戸市内のイタリアンレストランに

・シイタケ栽培：ホダ木の伐採・植菌（販売するほどの収穫はなく、ほぼ自家消費）

ウ）地元自治会の夏祭りに参加

・ドングリなどを使ったクラフト、苔玉づくり

エ）兵庫ドングリ千年の森をつくる会との植樹交流イベント（年 2 回）

・4 月：植樹活動（ドングリの会コアメンバー＋募集した会員 70 人前後）

・10 月：下草刈り、補植、伐採デモンストレーション（約 20 人＋一部家族も参加）

⇒今年度は雨天のため実内での意見交換会、昼食後枝豆収穫体験

2）活動における課題・要望

ア）活動員の高齢化（60 代後半～70 代が中心、リーダーは 80 代）について

・若い世代の参加を促進したいがなかなか集まらない。

・新たな参加を促すため、レクリエーション的要素を入れた入門的イベントを検討する。

・地元住民のほか地域外住民も参加できるようにしたい

イ）森林山村多面的機能発揮対策事業について

・来年度で終了するため、継続を考えたいがどうなるか分からない

・当事業では作業日当が出るので活動参加意欲が高まる。また機材や資材などの更新が

できるので継続したいが、どうなるか分からない。

・薪の販売や間伐材も販売しているが、活動経費を賄うのは難しい。

ウ）収益事業、活動経費について

・木の駅プロジェクトをもっと活用したい。伐採材の回収をして欲しい。
定期的な収益事業となるような形に出来ないか

・環境譲与税の活用
地域や活動グループに対して環境譲与税をもっと活用して欲しい
地域周辺の里山の整備（危険木の伐採等）に対して、整備費、活動費を出してほしい

②国領地区自治協議会

（1）国領瓶割峠整備の活動

・少しずつ地域に認知されてきた瓶割峠ですが、まだそれほど多くの方が日常的に山に入られることはないようです。ただ、万博のフィールドミュージアムで広報されることで、歩く方の広がりがある事を期待しています。大山側の理解も進み今年度は小学生の地域学習で峠を上ってくれました。

・峠の整備については日本森林ボランティア協会の支援も有り、山の整備だけで無く、階段作りやロープ張り等　進みました。来年度で日本森林ボランティア協会の作業が終了予定です。

・この先の整備を継続していける人材の確保が課題になっています。幸い地元からのボランティアの方も加わり、整備の方針等も伝えてはいます。枯松処理や大きくなった広葉樹等来年度での整備で目処がつきそうです。

・丹波在住の登山ガイドの方も関わりすでにガイドウオークもありました。

（2）課題整理

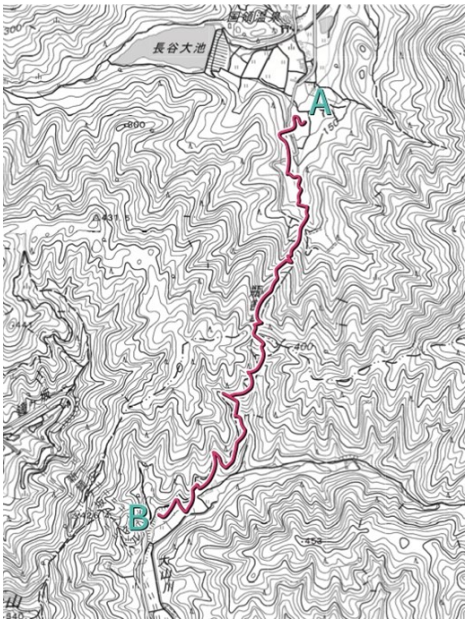
・次年度以降の整備の担い手の育成

・小学校との連携

・登山口までの交通

・山菜やツツジ等の花の資源の見直し

・峠のトイレ



【参考】瓶割峠ニュースレター（一部）

瓶割峠 ニュースレター

2022 年 4 月から取り組んできた「瓶割峠の古道とゆかりの整備」は、2025 年 4 月に最終年度を迎えます。
これを機に、国領地区の皆さまに瓶割峠についてより良く知っていただくため、関係者の皆さまから寄稿していただきました。

また、この取り組みは 2025 年の大阪・関西万博に合わせた「ひょうごフィールドパビリオン・体験型地域プログラム」にも認定され、整備が進行中です。ぜひ一度、瓶割峠を訪れ、その魅力を感じていただければ幸いです。

国領地区自治協議会・国領自治会

瓶割峠との出会い

国領地区自治協議会会長 久下 拓朗

瓶割峠との出会いは、小学校の遠足で鐘ケ坂トンネルに行った時。
平成元年頃に国領から旧丹南町大山地区へ下山した。この時、峠付近に東屋の跡地があると聞いており、実際に現地で見て感動した覚えがある。旧丹南町側は、緩やかな道となっていた。
三回目は、旧道を歩いた。急峻な峠道であり名前のいわれのとおりであった。ここは、県道でありながら、車の通れない道、今後、整備されることを願いつつ、当協議会は、峠の活性化のために事業展開をしているところです。

歩こう、魅惑の瓶峠峠

日本森林ボランティア協会理事長 山﨑 春人

皆さんの住んでいる国領地区から丹波篠山の大山地区に繋がる瓶割峠を歩いた方はどの程度いらっしゃるか分かりませんが、里山を象徴するような場所です。地域を展望出来る場所も有り様々に活用できます。
かつては摂津地方と丹波を結ぶ大切な峠道として利用されていました。又、少し前までは松茸山や炭や柴の山として地域の方達の大切な資源でした。エネルギー革命以降、山の姿が変わり、巡礼道としての役割も途切れてしまいました。
2022年からこの道を整備して（国領地区自治協議会「地域課題解決事業」）地域の皆さんに親しんでもらおうと日本森林ボランティア協会 (大阪に事務所を置く NPO) に依頼があり地元の方と共に整備しています。
又、県の里山モデル地区に指定され、県からアドバイザーとして私も関わっています。現在の作業は明るい山作りとして、常緑樹の間引き、枯松の除去、針葉樹の間伐等を行っています。さらに木の芽 (コシアブラ、タカノツメ、クロモジ) などが食べられる木を残す手入れ、景観の為に花 (ミツバツツジ、タムシバ、アセビなど) を楽しめる木を残すなどしています。
2025年の大阪万博に向けて、県が推進しているフィールドパビリオンにも声を上げ色々な方に峠の魅力を感じてもらえるように道の整備も行っています。
道標の設置や地域の中の解説看板も進み、親しみやすくなりましたので、是非散歩や体力作りに道を歩いてみましょう。四季それぞれの里山を楽しんでください。

③八幡共有山組合

1）現在の活動状況

・活動開始してから６年が経過

毎年、組合の役員会、総会、総事（総日役）は定例的に活動されている。

・組合運営としては、熱心な（責任感が強い）会長の元、協力的な役員もあり、活動は継続されていくが、世代交代も初期の頃から相談されている。

が、６年間変わらずに来ている。

・森林整備は、毎年確実に取組んでいることには、組合の活動成果として、トレイルランのコースとして利用されるなどの成果は見られる。

日　時	場　所	協議内容
2024 年 ４月 21 日	八幡神社　社務所	今年の活動予定と内容の打合せ
６月１日	現地 大沢ロマンの森作業道	作業道の管理　土砂流出防止の土嚢設置 設置方法についてアドバイス
６月 12 日	音羽の谷現地	今年度実施する森林山村多面的機能発揮事業予定地の現況調査、整備方法島の検討、指導
11 月 24 日	八幡神社 社務所	総会の議案についての打合せ 今年度の活動状況、来年度の活動計画
12 月 11 日	音羽の谷現地	森林山村多面的機能発揮事業計画地 音羽谷現地　作業状況の確認と指導
2025 年 １月８日	市役所会議室 音羽の谷現地	森林山村多面的機能発揮交付金事業の資料のとりまとめ方法についての指導・ヒアリング

大沢ロマンの森　作業道整備

谷渡りに丸木橋を設置

2）今後の取組み課題

・会員の高齢化、役員等の長期継続が続いており、世代交代や役員交代のタイミングをそろそろ考える必要があるが、なかなか難しそう。
しかし、今の取組みをどのように継続できるのか、役員と一緒に考えて、組合員にも意識をしてもらえる機会が必要

・組合員全体の活動は総事だけで、一部の役員で、森林山村多面的機能発揮交付金事業に取組んでいる。

・現在整備しているコースを組合員の家族も含めて散策する計画をしても良い。
この様な活動で、次世代へ繋いでいくことが、今後の課題である。

④岩崎自治会

1）現在の活動状況

・活動開始してから６年が経過

・間にコロナ禍による活動休止期があり、また、この活動を始めようとした時の自治会長（現山の会会長）が、離職した後に自治会としての活動に継続されなかったことから、岩崎山の会を設立して、里山づくりの活動を継続。

・昨年度から市補助の里山彩園事業に取組み、広葉樹林化皆伐事業跡地への植栽活動を進めている。

・山の会の会員数名で、年間、数回の植栽箇所の草刈などを実施

植樹したコナラの活着状況（3 年目）

アカメガシワ除伐

2）今後の取組み課題

・岩崎地区の山は人工林が多いことから、３ 年前からエリア全体を森林経営計画で林業事業者と契約をして進める話も出たが、自治会長が交代してからは、自

治会として森林整備をすることについては消極的となり、所有者のとりまとめが進まず、経営計画が現在は頓挫中。

・一方で、自伐型林業で、山守的な森林整備を委託する方向も検討中。
・作業をさせてくれる森林所有者があれば、そこからでも始められないか相談中。
・山の会の事務局担当者が多忙なため、進捗がゆっくりとなっている。
・合わせて、森林所有者台帳を作成する取組みについて、検討依頼
・森林施業プランナーの片岡さんとのコラボレーションを検討中
・自治会長にも積極的に関わってもらえる働きかけも期待

⑤ふるさと和田里山づくり協会

（1）ふるさと和田里山づくり協会　次年度以降に向けての課題・取組について

1）現在の主な活動

①森林・山村多面的機能発揮事業に取り組んでいる

・月１回の作業（常時 8～12 人くらいが活動、登録数は 24 名）
・岩尾城址・・・登山道の整備（沿道の徐間伐）、石垣の灌木除去
・校山園の整備（危険木の伐採、雑木伐採、オオムラサキの飼育、冒険遊び場など）
・校山園北側（財産区山林）の間伐

②その他

・シイタケ栽培・・・和田小学校と連携（ホダ木生産、小学生による植菌など）
・会員の技術・安全講習会（年１回、今年度は雨天のためチェーンソー講習会が延期、３月に出来れば実施を検討）

岩尾城跡雑木伐採作業

椎茸植菌（和田小学校３年生）

2）活動における課題・要望

・メンバーの高齢化が進んでいる。若い世代も 2～3 人入ってきてもらえたが、技術面も含めて継承していくことが必要。

・ふるさと和田里山づくり協会は 17 の自治会が含まれる（内 16 自治会が財産区有林を持っている）が、里山活動への参加が少ない。参加を促したい。

・間伐しても土留め用材としか活用できていない。伐採材の搬出を専門的にやってくれるところがあればいいのだが。

・事務局の人材不足（実質、村上会長 1 人）

3）今後の活動について

ア）岩尾城址の登山道の継続した整備をしていきたい

・徐間伐、道の整備（階段、サイン、ルート案内など）

・会員に重機を扱える人がいるので、その人の力を借りて登山口の整備を行う

・サインや看板の設置はできるが、サインのデザインや案内板を書くのが大変

イ）校山園（和田小学校隣接地）の整備を進める

・小学生だけでなく若者層も楽しめる「しかけ」づくりを考えたい

・体力づくり施設や冒険あそび施設等も考えていきたいが、なかなかデザインできない。どんなものを作ればよいか、どんなものなら作れるかを考えたい。

・古くなったホダ木や落ち葉を集めてカブトムシの森づくりやインセクトホテルなどを検討していきたい。